

6. 医学部

I	医学部の教育目的と特徴	6 - 2
II	「教育の水準」の分析・判定	6 - 3
	分析項目 I 教育活動の状況	6 - 3
	分析項目 II 教育成果の状況	6 - 1 3
III	「質の向上度」の分析	6 - 2 1

I 医学部の教育目的と特徴

- 1 新潟大学は、「自律と創生」を基本理念として、深い教養と広い視野を備え、豊かな人間性、高い倫理性、国際性を有し、創意工夫と問題解決能力に富み、基礎的技能と専門知識を身に付け、地域から国際社会まで活躍できる人材の育成を行うことを目標に掲げ、第二期中期目標では「主専攻プログラムを中心とする特色ある学士課程教育により、総合的な教養教育と専門教育の融合を行い、幅広い職業人を養成する」こととしている。
- 2 医学部では、これを踏まえて「医学を通して人類の幸福に貢献する」という理念を掲げ、人間尊重の全人的医療に従事する豊かな教養と優れた専門的能力を有し、多様な社会的要請に応えることができる医療人、教育・研究者、行政官として地域や世界で指導的役割を果たすことができる人材育成を目的としている。
- 3 医学知識を記憶しその技能を修得しただけでは良い医療を実践できない。深く理解し、活用し、医療現場の諸問題を解決し、さらに新しい医療を創造できることが、上記の目標に掲げた人材に必要である。このような能力を持ち、かつ組織内で指導的・教育的な役割を果たす人材を育成するために、複数講座が連携して小グループ単位のチュートリアル教育を行っている。
- 4 医学科の特徴としては、地域医療教育、国際性と医学研究心の涵養が挙げられる。地域医療の担い手を育成するためには、その意義とそのやりがいを現場の体験を通して体感することが必須であり、体験型カリキュラムを低学年から高学年まで複数導入している。その一例として、新潟県内の医療現場で地域医療を体験する「地域医療実習」を新潟県と連携して5年次生全員が受講するようにした。また医学教育の国際的な質保証を担保するために、平成25年に日本で初めて「国際基準に準じた医学教育分野別認証評価」トライアルを受審し、その結果を受けて新しいカリキュラムを平成26年度入学者からスタートさせた。さらに発展的英語科目を開講し国際的なコミュニケーション能力を涵養するとともに、海外での臨床実習（8週間）等の機会も提供し、これらの選択制カリキュラムを通して、グローバル医療に必要な知識と技能の基礎を教育している。将来の医学教育を担う基礎医学教育・研究者の減少は、臨床医師の減少以上に深刻である。医学の研究心と探求心を涵養することを目的とした医学研究実習（8週間）を全学生が履修するとともに、選択制の研究医養成コースを設定した。
- 5 保健学科の特徴としては、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3専攻を置き、保健医療を中心に自己開発を目指す優れた臨床医療技術者の育成を教育目標とし、かつ生涯にわたり保健学を探究し、国内外の保健・医療に寄与する独自性の高い研究・開発ができる能力を育成する教育を行っている。現場での実践力と将来、保健医療チームのリーダーとなる質の高い人材育成をめざし、同じキャンパスで医学科、歯学部の学生とともに、さらに海外の学生との交流を通し、医歯学総合病院や海外協定大学などの協力を得た包括的教育体制のもと学びあっている。

[想定する関係者とその期待]

国内外の医学および保健学を志望する学生・社会人、その家族、県内外医療機関からは、専門知識・技能のみならず深い教養と人間性、高い倫理性、社会性、国際性を併せ持ち、問題解決能力と創造性を有し、地域・国際医療に対しても高い情熱を持つ医療人の育成が期待されている。国内の医療施設、介護保険施設、行政機関および医療産業界からは、未来の医療・医学を発展・開拓するとともに、最先端研究に裏打ちされた医学・保健学教育を行える医療人の育成が期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1 教育組織編成

医学部は医学科と保健学科からなり、後者はさらに看護学専攻（看護専攻）、放射線技術科学専攻（放射専攻）、検査技術科学専攻（検査専攻）からなる（資料1）。医学科は昨今の社会的要請に応じて学生定員を段階的に増員しており、平成27年度の入学定員は127人である。また推薦入試に地域枠（17人）を設けている（新潟県の奨学金を受ける12人の地域枠Bを含む）。保健学科は156人の一般入学に加えて、医療現場勤務経験者を対象とした社会人入学（4年制，4人）、国家資格あるいは国家試験受験資格を有する保健学系短期大学（または専門学校）卒業生を対象とした3年次編入学（20人）を受け入れている。

資料1 医学部の構成と平成27年度入学定員

学 科		医学科	保健学科		
専 攻			看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
取得できる学位		学士（医学）	学士（看護学）	学士（保健学）	学士（保健学）
取得できる資格		医師	看護師，保健師，助産師，養護教諭一種免許状	診療放射線技師	臨床検査技師，健康食品管理士*
入学定員	一般入試（前期）	85	41	19	18
	一般入試（後期）		16	9	8
	推薦入試	一般枠 20 地域枠 17	20	10	12
	帰国子女特別入試		1	1	1
	社会人特別入試		2	1	1
	2年次編入学	5			
	3年次編入学		10	5	5

* 健康食品管理士とは、基礎医学、臨床検査学などの教育を受けた食品や健康食品を安全で科学的根拠をもとに取り扱う能力を有する資格者のこと。

2 教員組織と教育体制

医学部の授業は、大学院医歯学総合研究科、医歯学総合病院の医系教員と看護職、保健学科教員および脳研究所の教員が分担している（資料2）。教員が担当する講義はその研究内容との合致を重視し、教員の採用は公募制、5年の任期制（再任可）を導入している。学部内でカバーできない内容は非常勤講師（6年間で延べ2128人）で対応している。

学生が診療の現場で実習する参加型臨床実習は、市中・県内病院の協力を得ている（平成27年度は95病院）。その際、現場の医師、看護師、放射線技師、検査技師に臨床教授等の称号を付与し、学生を指導・評価する教育環境を整え、小グループによる確実な医療技術教育を実現している（資料3）。また新潟県と連携し、平成21年に総合地域医療学講座（特任教員5人）を設置し、医学科での地域医療実習を5年次学生全員に課した。さらに平成26年には別の新潟県寄附講座として地域医療推進・教育学講座（特任教員2人）を設置し、災害医療教育センターも併設した。

主な実習施設である新潟大学医歯学総合病院とは密な連携をとっている。看護部とは平成21年度文部科学省大学改革推進事業「看護師の人材養成システムの確立」で採択された「“気づく”を育て伸ばす臨床キャリア開発」事業により、臨床実践力・教育力を育成するための4つのシステム（教育プログラム開発、教育指導者養成、人事交流、キャリアパス

構築)を構築し、さらに病院内に「看護部臨床技術トレーニングセンター」を開設して、保健学科学生の看護技術トレーニングの場として活用している。

なお、医学科では成績不良や留年する学生に対し、面談とゼミ(旭町クラブ)による積極的なサポートを行っている(資料4)。

資料2 平成27年5月現在の医学部教員配置

学科	専攻	教授	准教授	講師	助教
医学科	分子細胞医学専攻	10	6	2	15
	生体機能調節医学専攻	22	22	9	19
	地域疾病制御医学専攻	5	6	2	9
保健学科	看護学専攻	10	10	0	11
	放射線技術科学専攻	8	3	0	4
	検査技術科学専攻	8	4	0	5
医歯学総合病院		3	16	48	78
脳研究所		10	14	0	19
寄附講座		特任5	特任7	特任1	特任9

(注) 医学部の専攻は医歯学総合研究科の専攻名を記した。

資料3 平成27年度医学部臨床教授等称号付与状況

学科名	機関名	教授	准教授	講師	計
医学科	大学病院以外の病院	29	277	39	345
保健学科	新潟大学医歯学総合病院	8	40	78	126
	大学病院以外の病院	25	65	76	166
	訪問看護施設等	6	3	0	9
計		68	385	193	646

資料4 医学科における学生面談数および旭町クラブ参加者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
面談数	32	37	58	102	179	174
旭町クラブ参加者数	—	—	55	53	50	9

3 教育の質の改善・向上に向けた体制

FD (Faculty Development) の主催や、学外 FD への教員派遣を推進し、教員の教育力向上に努め(資料5, 資料6, 資料7), これにより共用試験実施体制の高い信頼性を維持している。また学生による授業評価(資料8)を教員にフィードバックし、授業改善に活用している。

医学科では、平成23年に総合医学教育センター(教授を含む専任教員3名)を設置し、カリキュラム改善、学生支援等の体制を強化した。さらに平成25年に日本で初めて「国際基準に準じた医学教育分野別認証評価」トライアルを受審し、その結果を受けて新しいカリキュラムを平成26年度入学者からスタートさせた(6-7頁参照)。

資料5 医学科指導教員に対するFD

名称	主たる対象	日程	内容
医学教育ワークショップ	新規採用教員	1日	医学教育のカリキュラムプランニング
医学教育FD	教員	年数回 (毎回2時間)	カリキュラムプランニング, 教育手法, 評価手法など
全教員懇談会	教員	月1回 (毎回1時間)	教育・研究に関する情報共有, および教育・研究力向上
CBT (共用試験実施機構による全国共通試験) 問題作成・学内ブラッシュアップワークショップ	学生教育担当教員	年5回 (毎回2~4時間)	教員の試験問題作成能力の向上
臨床研修指導医講習会	卒後臨床教育担当教員	年1回 (2日間)	臨床技能指導能力およびOSCE評価の向上
医学教育者のためのワークショップ (富士研)	教授からの選抜者	年1回 (5泊6日)	新しい医学教育の理論, 方略, 評価法のすべて

資料6 医学科におけるFDの開催状況

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
開催回数	13	18	16	21	20	14
参加者数 (延べ人数)	749	972	822	954	940	786

(注) 平成27年度は日本医学教育学会大会主催のためFDを一部開催せず。

資料7 保健学科におけるFDと参加状況

年度	実施月日	テーマ・内容	参加人員 (参加率)
平成22年度	9月8日	『大学教育における成績評価のあり方』 講演およびワークショップ	35人 (56%)
	2月15日	『FD/SD講演会』 講演1 男女共同参画の推進と現状 講演2 面白さの発見につながる講義の探求	50人 (78%)
平成23年度	9月8日	『保健学系主専攻プログラムにおけるNBAS開発とその効果を展望するために』 ①新潟大学学士力アセスメントシステム(NBAS)開発と概要 ②主専攻プログラムにおけるNBAS試行開発	31人 (51%)
	2月14日	テーマ1 『マクロ経済学1』における学習効果改善の取り組み テーマ2 プロGRESSレポート —広島大学における到達目標型教育プログラム—	33人 (54%)
平成24年度	9月6日	『ICTを利用した大学教育について』 ①国家試験の自己勉強へのICTの活用 ②小児の臨床看護の理解を深めるためのICT活用事例 ③パワーポイントを使用した講義の紹介 ④パワーポイントの使用方法についてのワークショップ	31人 (51%)
	3月6日	『授業改善と文献や資料の効率的な運用について』 ①生理学教育への挑戦 ②EndNote6を使用した文献管理・レポート&論文及び執筆方法	32人 (52%)

平成 25 年度	4 月 23 日	テーマ 1 『平成 25-27 年度大学院 GP について～大学院教育について考えましょう～』 テーマ 2 『平成 25 年度留学生交流支援制度（短期派遣・受入）プログラムについて』	39 人 (59%)
	2 月 13 日	『英語で授業をするために 一大事なのは「英語」じゃなく「授業」です！～』	32 人 (52%)
平成 26 年度	8 月 4 日	『キッカケから結果まで「保健学科 3 専攻による共同研究の取り組み」』 ○放射線科学技術と看護学との共同研究 ○講演に対するコメントとまとめ 「3 分野の研究手法教育の共通部分」	40 人 (65%)
	3 月 9 日	『初年度教育におけるスタディ・スキルズの有効活用について話し合おう』	31 人 (50%)
平成 27 年度	8 月 3 日	『学部教育における授業形態のあり方』 ①プレゼンテーションの工夫と双方向型授業の紹介 ②授業効果を高める教授法	40 人 (65%)
	3 月 8 日	『教員が学生の対応に悩む状況とその対応』 ○障がい学生支援の取り組み	41 人 (66%)

資料 8 学生へのアンケート

名称	学科	学年	主たるアンケート項目
教養教育に対する授業アンケート	医学科 保健学科	1 年	学生の学習意欲, 授業設計, 教員, 教授技術, 学習成果, 総合評価, 自由記載, その他
授業アンケート	医学科	2～6 年	学生の学習意欲, 授業設計, 教員, 教授技術, 学習成果, 総合評価, 自由記載, その他
	保健学科	1～4 年	目標の適切性, 内容の適切性, 分かりやすさ, 講師の準備状況, 自由記載, その他
看護学実習アンケート	保健学科	2～4 年	目標到達度, 技術習得状況, 予習学習, 指導方法及び実習環境への要望
卒業研究アンケート	保健学科	4 年	卒業研究の満足度, 難しかった研究過程, 授業評価 (講義内容, 指導状況, 資料等), 次年度の 4 年次生へのアドバイスなど

(水準) 期待される水準を上回る
(判断理由)

医学科では昨今の社会的要請に応じて学生定員を増やし、将来の新潟県の地域医療を支える地域枠を設定している。教員は全て公募により教育担当能力を重要な指標として適任者を選抜し、5 年の任期制（再任可）を導入している。教員は基礎、臨床にわたる広い分野をカバーできるように配置され、FD への参加、教育実績の評価などを通して、採用後も医学・保健学教育のキャリア向上のための体制整備をしている。さらに医学科では、専任教員を置く「総合医学教育センター」を設置し、日本で初めて「国際基準に準じた医学教育分野別認証評価」トライアルを受審する等、教育体制の強化に努めている。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1 教育課程編成とその工夫

医療人には豊かな一般教養が必要であるとの観点から、多様な一般教養科目を1年次の選択必修科目としている(資料9)。

資料9 教養教育に関する授業科目

科目区分	細区分	授業科目	修得単位数	
			医学科	保健学科
英語	英語		4 (注1)	8 (注2)
初修外国語			6	
健康・スポーツ	体育実技		1	1
大学学習法				2
情報リテラシー			2	20 (注3)
新潟大学個性化科目				
自然系共通専門基礎	数学・統計学 物理学 化学 生物学		2	
			4	
			4	
			4	
自然科学	理学	物理学基礎実験	2	
		化学実験	2	
		生物学実験	2	
人文社会・教育科学			4	
医歯学	医学	医学序説Ⅰ・Ⅱ	2	
合計			39	31

(注1) 第2年次修了までに修得すること。ただし、第1年次修了までに2単位以上修得すること。

(注2) 英語4単位、初修外国語2単位以上を含むこと。

(注3) 自然系共通専門基礎6単位を含むこと。

医学科では、専門教育が開始される2年次以降は、課題発見・解決能力・主体性の育成に重点を置き、小グループ学習を取り入れた複数講座連携の臓器別カリキュラムを骨格に据えながら、基礎医学、臨床医学、臨床実習を経時的に配置している(資料10)。特色とする地域医療教育については、経時的に複数のカリキュラムを開講し(資料11)、5年次の臨床実習Ⅰで全員が地域医療を現場で学ぶ機会を整備した。

さらに平成26年度入学者から導入した新カリキュラムでは、初年次学生の動機づけ強化として、従来の「医学序説」・「早期医学体験実習(EME)」に加え、「医学入門」を新設し(資料12)、研究マインド醸成の目的で、「先端医科学研究概説」、「医学論文を読む」等の選択科目を1年次向けに整備した(資料13)。また従来4年次で実施していた「医学研究実習」を3年次に前倒しし、学生が先端医学研究に触れる機会を早めた。さらに平成25年度には「研究医養成コース」を新設(14人が登録)し、意欲的な学生に課外活動での研究の場を提供した。参加型臨床実習の充実としては、実習期間を52週間から64週間に拡充し、学生の習熟度を担当教員や学生自身が可視化できるように整備しつつある。

資料 10 医学科カリキュラムの概要

新潟大学医学科新カリキュラム



資料 11 医学科における地域医療関連カリキュラム

科目名等	学年	内容
早期医学体験実習 (EME)	1	医学・医療の現場に早期に接することにより、医学科学生としての意識を高める。
医学概論	2	「医師不足が起こる原因と対策」と「地域医療は今後どうあるべきか」を課題に取り上げ、グループ学習と発表会を行う。
総合臨床医学コース (臨床医学入門)	3	地域医療における医療面接・身体診察法の重要性を理解し、プライマリ・ケアに必要な症候の基礎知識を学習する。
臨床実習入門	4	ユニット「地域医療」で地域医療の現状と問題点を学習し、地域支援テレビシステムの意義、構成要素および利用方法を習得する。
保健所実習 (公衆衛生)	4	学生の出身地又は新潟県・新潟市の保健所において2日間の実習を行う。
地域医療 (臨床医学講義)	5	地域医療病院の医師 (非常勤講師) から講義を受け、地域医療における医師の役割、地域医療に必要なチーム医療やスタッフについて学習する。
地域医療 (臨床医学実習)	5	地域医療の現場での臨床実習を5年次全員が1週間行う。
臨床医学講義 (集中)	6	ユニット「社会保険・地域医療」で地域医療病院の医師 (非常勤講師) から講義を受け、地域連携パスや介護・在宅医療について学習する。

資料 12 医学科における医学への動機付け科目

医学序説 I	基礎医学と臨床医学に関するオムニバス形式の講義。
早期医学体験実習	KJ 法を用いた病院体験実習への学習課題設定を 1 日間かけて行い、2 日間の病院体験実習後に全体発表会で課題達成を報告する。医学学習への動機付けが目標。
医学入門	入学早期の 1 年後期より、旭町キャンパスで医学・医療に関する講義に触れ、医師になろうとする意思の涵養を目標とする。

資料 13 「先端医科学研究概説」、「医学論文を読む」履修者数

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
先端医科学研究概説	31	27	26	22	24	33
医学論文を読む	—	27	22	33	23	17

保健学科では、3 専攻それぞれが必修・選択科目を設定し、学生が主体的に幅広く学ぶ機会を設けている（資料 14）。専門基礎科目は 4 分野（生命科学分野、健康科学分野、医療社会分野、国際医療分野）からなり（資料 15）、専門科目と有機的に関連する。たとえば生命科学分野は専門科目の疾病・治療学・診断学への、健康科学分野は看護援助論・放射線治療技術学・健康管理論への導入としている。看護専攻では、文部科学省の「看護学基礎カリキュラム」策定（平成 12 年）を契機に、平成 24 年度にカリキュラム改正を行い、保健師教育における公衆衛生看護学の充実・強化として地域医療実習単位数を増やし、多様な活動領域での実習計画を立案した（資料 16）。さらに、平成 22 年度新潟大学 GP として採択された「保健学総合」（資料 17）は、平成 23 年度から保健学を動機づけるプログラムとして 1 年次に関講し、“学生と教員が学び鍛えあう”をスローガンに教育している。

資料 14 保健学科専門教育に関する履修方法

		看護学専攻		放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
		H22・23	H24～27		
専門基礎科目	必修科目	15 単位 (8 科目)	15 単位 (8 科目)	14 単位 (7 科目)	12 単位 (6 科目)
	選択科目	3 単位	3 単位	6 単位	6 単位
	小計	18 単位	18 単位	20 単位	18 単位
専門教育科目	必修科目	75 単位 (60 科目)	74 単位 (60 科目)	70 単位 (47 科目)	62 単位 (58 科目)
	選択科目	—	1 単位	3 単位	13 単位
	小計	75 単位	75 単位	73 単位	75 単位
合計		93 単位	93 単位	93 単位	93 単位

資料 15 保健学科専門基礎科目（各専攻共通）

分野	授業科目
生命科学分野	人体の構造と機能 I，人体の構造と機能 II，遺伝と分子生物学，人体発生学
健康科学分野	医療と画像技術，環境と健康，生活習慣と健康，疾病の原因と成り立ち，疾病の予防と治療，栄養と健康，性の科学
医療社会分野	人間工学論，医学と医療の歴史，ケアの基本理念と実際，医療の倫理，医療と法，医療と福祉，チーム医療，医療ボランティア論，医療統計学，介護実習，救急救護法
国際医療分野	国際医療保健学，環日本海医療概論，国際医療情報科学

特色ある科目	科目の概要等
性の科学	性の保健科学及びGSH(性差保健)の観点から、セックスとセクシュアリティ、性的健康と権利について学習する。ここではとくに、保健、医療専門職者に必要な基礎知識として人間の性行動を左右する因子や機序、性の健康、一生を通じたセクシュアリティの発達等について学ぶ。
ケアの基本理念と実際	オムニバス方式で保健医療領域の専門の教員が担当し、ケアの意味や実際についてふれる。より良く生きていくためのケア、専門家の行うケアの実際を説明する。
医療ボランティア論	ボランティアに関する基礎知識をふまえ、国内外におけるさまざまなボランティア活動の実際から、生活支援から医療保健福祉に関連するボランティア活動を学ぶ。そして、社会におけるボランティアの意義・役割について考察する。
環日本海医療概論	看護(3年・選択)、放射(3年・必修)、検査(3年・必修)。 日本海を囲む諸国、および広くアジア諸国との交流の深い新潟にあって、各国の保健・医療事情を概観し、社会的、文化的側面にも光を当てて、保健学および医療における国際的理解と相互発展について教授する。

資料16 保健学科における地域医療関連カリキュラム(いずれも看護学専攻)

科目名等	学年	内容
在宅生活支援看護実習	3	新潟市内の訪問看護ステーションで訪問看護師に同行し継続訪問の体験から、在宅療養者・家族の支援ニーズ理解、保健医療福祉チームにおける訪問看護の役割を学ぶ実習。
地域保健学実習	3	(株)新潟中央青果、新潟県庁、新潟産業保健推進総合センター、障害者自立支援センターオアシスにおいて、産業保健を推進するシステムと産業保健分野における保健師の役割学習と、NPO等多様な場における保健師の役割を学ぶ実習。
地域健康支援看護実習(公衆衛生看護学実習)	4	新潟市保健所および区役所、地域保健福祉センターにおいて、公衆衛生活動における保健師の役割と公衆衛生看護の技法を学習する10日間の実習。
地域健康支援看護実習(地域看護診断実習)	4	新潟県佐渡保健所、佐渡市役所において、1地域を対象に全戸訪問、住民自主グループとの交流、地域診断および佐渡地域医療連携ネットワーク(ひまわりネット)の学習を主体に5日間(現地2泊3日)の実習。

資料17 「保健学総合」の授業内容

<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健学をより深く学ぶため 保健学総合の学習への導入。講義の概要を紹介し、グループワーク、ディスカッションなどのあり方を紹介し、学習を深める手法を学ぶ。 2. 保健学における医学の位置づけと専門性 保健・医療における医学の位置づけと専門性について、専門家である教員の考えを紹介し、保健学を学ぶための医学の意義を論ずる。 3. 保健学における看護学の位置づけと専門性 医療における看護学の位置づけと専門性について、専門家である教員の考えを紹介し、保健学を学ぶための看護学の意義を論ずる。 4. 保健学における放射線技術科学の位置づけと専門性 医療における放射線技術の位置づけと専門性について、専門家である教員の考えを紹介し、保健・医療における放射線技術科学の意義を論ずる。 5. 保健学における検査技術科学の位置づけと専門性 医療における検査技術の位置づけと専門性について、専門家である教員の考えを紹介し、保健・医療における検査技術科学の意義を論ずる。 6. チーム医療と保健学チーム 医療の重要性とそれを支えるものについて議論し、チームメンバーの専門性の意義を考察する。 7. 国際医療活動と保健学ーアジアの国際保健活動ー アジアなど発展途上国における国際保健活動について、「今、伝えたいこと、考えたいこと」
--

8. 国際医療活動と保健学－欧米の保健医療－ 欧米先進国における保健医療が抱える課題について、保健学の視点から考える。
9. 性差と保健学 性差医療や性差を背景とする諸課題について考察し、保健学の取組について考察する。
10. 心と体の健康と保健学 心身両面からの医療への各専攻の立場からのアプローチ。
11. 保健学と倫理 医療の場における倫理的諸問題をはじめ、保健学における倫理的課題について考察する。
12. 地域医療と保健学 新潟という地域の保健・医療の特性とそれに対する保健学の取組について考える。
13. 医療事故・医療過誤と保健学 医療事故や医療過誤の発生の背景とメカニズムやそれらを防ぐための取り組みについて考察する。
14. がん医療最前線と保健学 がんの治療とケアの技術、緩和医療など、がん医療における最新医療を紹介し、その中で保健学の果たす役割について考察する。
15. パイオメディカルテクノロジーと保健学 生命科学、遺伝子工学、生体情報工学など最新のパイオメディカルテクノロジーがどのように保健学に生かされているかを紹介し、保健学の将来像を展望する。

2 グローバル人材養成

グローバルに活躍できる人材育成という観点から、国際性の涵養を目指した教育プログラムを整備している（資料 18）。医学科では、グローバル人材育成プログラムの一環で、①海外の医師・研究者の招聘講義・セミナーの開催、②英語コミュニケーション能力を高める英会話講座（MEET）、③1年次選抜学生（約 10%）を対象としたアカデミック英語集中プログラム（SPACE）等を平成 25 年秋から開始した。4 年次の医学研究実習では毎年 10 人以上が海外で実習を行っている。海外の医学生との交流は、交流大学および交流学生数を増やすとともに、本学学生も交流大学に短期派遣することで双方向交流を実現している（資料 19）。保健学科では、ペラデニヤ大学（スリランカ）とマクマスター大学（カナダ）へ平成 23 年度からスタディーツアーを実施しており、特にペラデニヤ大学との交流は、「新潟大学・ペラデニヤ大学グローバルヘルス人材育成に向けた短期研修プログラム」として平成 23 年度から日本学生支援機構（JASSO）の支援を受けながら、本学からの短期派遣（8～10 人を 10 日間）と、ペラデニヤ大学からの学生の受け入れ（6～9 人を 5 か月間）の双方向交流を実現している。本学からの短期派遣者には「国際保健医療学（1 単位）」を認定し、ペラデニヤ大学の留学生のために平成 23 年度から「Theories and Skills of Health Sciences（2 単位）」「Research and Presentation in Health（6 単位）」を認定している（資料 20）。

資料 18 グローバル人材育成に関するカリキュラム

学科	学年	名称	内容	年度ごとの人数					
				H22	H23	H24	H25	H26	H27
医学科	1	SPACE	選抜された学生を対象に Native speakers によるアカデミック英語を集中的に行うプログラム	—	—	—	6	17	18
	4	医学研究実習	8 週間集中的に基礎医学研究を国外で行う	15	14	13	13	15	13
	6	臨床実習 II	ミネソタ大学での臨床実習	2	2	1	1	2	2
トロント大学、バージニア州立大学での臨床実習			1	0	0	0	0	0	
保健学科	1～4	スタディーツアー	スリランカ・ペラデニヤ大学	—	9	10	8	9	12
			マクマスター大学（カナダ）	—	—	9	6	7	3

資料 19 夏期医学生交流プログラム (Student week) 派遣・受入人数

大学名	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
ウラジオストク医科大学			0	3	0	0	0	0	0	0
極東医科大学			0	2	3	2	2	2	4	4
パシフィック医科大学			0	0	2	3	3	3	3	3
クラスノヤルスク医科大学			0	0	3	2	4	4	4	4
ハルビン医科大学			0	0	2	5	3	5	2	0

資料 20 国際コース R コード科目 (ペラデニア大学からの留学生対象)

科目名	内 容
リサーチワーク 「保健学課題研究」	保健学 (看護学, 放射線技術科学, 検査技術科学) の指定された研究課題について, 研究計画立案, 研究手法, 実験や調査, データの取りまとめ, 成果発表を通じて実践的に学ぶ。
コースワーク 「保健学の理論と技法」	保健学 (看護学, 放射線技術科学, 検査技術科学) の指定されたテーマについて講義, 実習または演習を通じて, 理論と実際のスキルを学ぶ。

3 社会ニーズを踏まえたプログラム

保健学科では, 平成 25 年度から医学物理士を目指す学生のための副専攻プログラムを開始した (資料 21)。医学物理学は物理学を積極的に生かして医療の発展に貢献することを目的とし, 近年関心が高まっている。

資料 21 分野別副専攻プログラム「医学物理学基礎」

	入門科目履修者数 (単位取得者数)			副専攻認定者数		
	保健学科 (放射専攻)	物理学科他	全学計	保健学科 (放射専攻)	物理学科他	全学計
平成 25 年度	4 (4)	11 (9)	15 (13)			
平成 26 年度	0 (0)	7 (6)	7 (6)	2	2	4
平成 27 年度	9 (9)	10 (7)	19 (16)	0	2	2

4 教育方法の工夫

小グループ学習やチーム基盤型学習などの授業形態を組み合わせ, 洞察力, 分析力, コミュニケーション能力, アイデア力の育成を図っている。これらの学習に必要な技術 (発想法・文献検索法・発表法等) を医学科 2 年次と保健学科 1 年次に学習させている。

医学科の臓器別統合コース (1~4 週間の 16 コース) は, 小グループ学習, 自己学習, 発表会, 講義を組み合わせ, 適宜レポートやプロダクトを作成させ, 試験で達成度を確認している。臨床実習に進む前に, 熟練した標準模擬患者 (SP) による医療面接演習や, OSCE における学外評価者を含む複数教員による評価等を通じ, 基礎的診療技術と医師としての態度を指導している。医療面接法や診察法などの基本技術については, シミュレーター教材を臨床技能教育センターに常駐配備し自学自習を可能にしている。保健学科の 4 年次に卒業研究 (4 単位) を課し, 1 年次の学習をふまえ関心領域のテーマに主体的に取り組み, 研究の過程を学ばせ, 研究の成果を学科内で発表させている。

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

医学科では新カリキュラムを整備し, 地域医療実習の強化や, 英語コミュニケーション能力を高める取り組み, 基礎医学研究・教育者育成に向けた取り組み等をスタートさせた。

保健学科では, 3 専攻で構成されている強みを生かし, 教員の研究活動, 成果を生かした多彩な教育内容を展開し, 専門的かつ総合的な保健学教育を充実させている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点到に係る状況)

1 履修・進級状況

医学科の進級率は概ね 90%以上を推移している(資料 22)。カリキュラムの特徴である医学研究心を育む点では、「医学研究実習」の整備に加え「研究医養成コース」を設置したことで、学会発表等を主体的に行う学生が現れた(平成 25～27 年度で 13 人)。またグローバル人材育成カリキュラムの整備により、米国の医師国家資格である USMLE を受験する学生が増加した(平成 24～26 年度に 8 人が合格)。平成 26 年度より、4 年次から 5 年次の進級要件である共用試験 CBT の判定を全国統一基準(IRT43)としたが、単位取得者全員がこの基準で合格した(資料 23)。CBT は基礎・臨床医学のほぼ全領域の基礎知識が含まれており、この時点までに学生に十分な基礎知識が身についたと判断される。その後の臨床実習で実践的能力を身に付け国家試験を受験するが、国家試験合格率は概ね 90%以上を維持している。これらの成果が学生の入試区分に関係しない点は(資料 24)、多様な入試システムと入学後の教育システムの連動を示している。

資料 22 医学科の進級率および標準修業年限卒業率(%)

学年	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
1	97.6	98.3	99.2	99.2	99.2	95.9
2	85.2	87.1	86.6	88.2	84.6	93.2
3	95.3	94.7	97.7	90.4	92.8	91.5
4	100.0	98.0	98.2	99.2	98.2	99.2
5	96.8	97.2	98.0	99.1	99.2	99.1
6(卒業)	99.0	100.0	100.0	100.0	99.1	97.7
標準修業年限卒業率	91.6	87.4	92.6	86.7	80.0	82.4

資料 23 4 年次学生における OSCE と CBT の成績

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
OSCE	合格者数(1 回目)	95	101	109	126	108	128
	追再試受験者数	10	0	0	4	4	1
	不合格者数	0	0	0	0	0	0
CBT	合格者数(1 回目)	103	97	106	126	107	127
	追再試受験者数	2	4	2	4	5	2
	不合格者数	0	0	1	0	0	0

資料 24 医師国家試験合格者数

入試区分	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格
前期日程(一般)	58	7	60	4	73	3	68	4	66	7	82	7
後期日程(一般)	11		5		4							
前期日程(地域枠)							4		1		5	
推薦(一般枠)	17	1	19		20		19	1	17	2	20	
推薦(地域枠 A)									4		5	
推薦(地域枠 B)									5		4	
第 2 年次編入					5		3	1	5	1	5	
第 3 年次編入	4											
合計	90	8	84	4	102	3	94	6	98	10	121	7
受験者数	98		88		105		99		108		128	
国家試験合格率	91.8		95.5		97.1		94.9		90.7		94.5	

保健学科では、進級率はほぼ 100%に達し（資料 25）、国家試験合格率は全国平均を上回る。特に保健師合格率の平均が 97.8%と、第 1 期中期目標期間（93.6%）より向上している（資料 26）。単位取得状況は、教養教育科目が占める 1 年次で 95%、専門科目が中心の 2～4 年次は約 99%である（資料 27）。

資料 25 保健学科における進級率（%）

専攻	学年	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
看護学専攻	1	100.0	100.0	100.0	98.8	100.0	100.0
	2	98.8	100.0	100.0	98.7	97.5	95.2
	3	94.9	97.6	93.7	93.7	92.3	94.5
	4 (卒業)	94.8	94.9	97.6	92.4	93.7	98.9
放射線技術科学専攻	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	3	100.0	94.9	100.0	95.1	100.0	100.0
	4 (卒業)	94.7	100.0	94.9	97.5	92.7	97.8
検査技術科学専攻	1	100.0	100.0	100.0	100.0	95.0	95.2
	2	100.0	100.0	97.5	100.0	100.0	100.0
	3	100.0	100.0	100.0	92.3	100.0	100.0
	4 (卒業)	100.0	100.0	97.4	100.0	92.3	100.0

資料 26 保健学科の国家試験結果

区 分		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
看護師国家試験	受験者数	79	84	75	76	77	81
	合格者数	77	83	74	75	75	81
	合格率	97.5	98.8	98.7	98.7	97.4	100.0
保健師国家試験	受験者数	89	93	85	86	86	91
	合格者数	84	89	84	85	86	90
	合格率	94.4	95.7	98.8	98.8	100.0	98.9
助産師国家試験	受験者数	18	17	13	16	15	13
	合格者数	17	15	13	16	15	13
	合格率	94.4	88.2	100.0	100.0	100.0	100.0
診療放射線技師国家試験	受験者数	40	37	41	38	40	40
	合格者数	39	37	40	36	39	33
	合格率	97.5	100.0	97.6	94.7	97.5	82.5
臨床検査技師国家試験	受験者数	37	38	41	36	40	41
	合格者数	31	37	37	36	40	39
	合格率	83.8	97.4	90.2	100.0	100.0	95.1

資料 27 保健学科の学年別単位取得状況

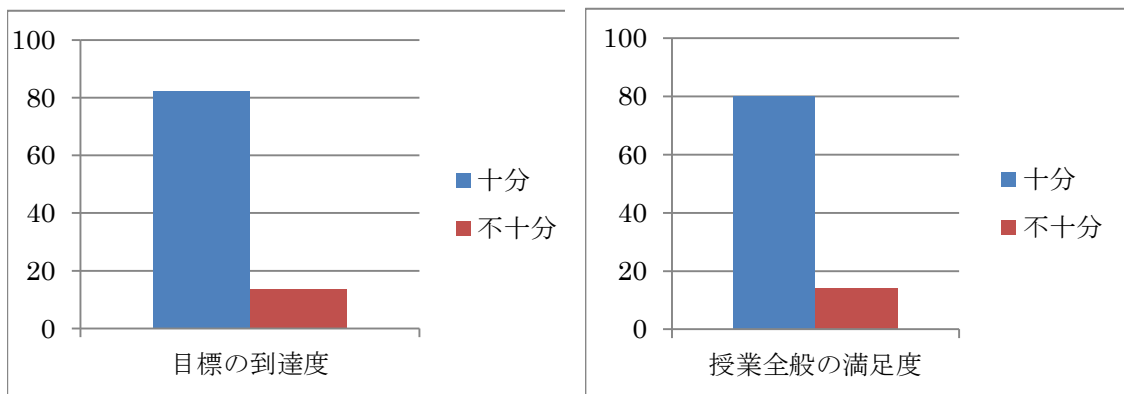
学年	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
	単 位 取得率	平均取得 単位数	単 位 取得率	平均取得 単位数	単 位 取得率	平均取得 単位数	単 位 取得率	平均取得 単位数	単 位 取得率	平均取得 単位数	単 位 取得率	平均取得 単位数
1	94.3	44.9	93.0	45.8	95.5	46.4	93.3	46.6	96.4	45.8	96.4	42.7
2	99.5	46.0	98.2	45.6	99.2	44.7	99.3	43.5	98.1	43.2	99.5	44.0
3	99.1	35.7	98.2	34.4	97.5	34.9	98.6	34.5	99.3	35.0	99.3	34.1
4	99.8	16.7	99.7	16.0	99.0	16.0	98.6	16.6	99.4	16.1	99.6	15.7

2 学生アンケートの結果に基づく学業の成果

医学科で講義・実習の終了時に実施した2～6年次の講義・実習科目に対する学生による授業評価アンケート（無記名）では、学習目標の到達度および授業全般の満足度は十分とする回答が平均80%を超えている（資料28）。

保健学科においては、平成26年度看護学専攻の演習・実習のレポートに対象理解、問題分析等修得の記載があり、平成27年度卒業時アンケートでは、対象理解および倫理観の学習目標達成状況は100%、分析能力・研究的態度は90%以上を占めた（資料29、資料30）。ペラデニヤ大学の短期留学生のアンケートでの満足度は良好であった（資料31）。

資料28 講義・実習科目に対する学生アンケート



資料29 平成26年度演習・実習のレポート及び教育・学生支援機構学生アンケートの抜粋

小児看護学演習（看護・3年）	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学演習ポートフォリオを活用したことで、事前事後学習との連動的演習となり学生個々の学習に役立った。 ・小児の特徴理解と看護技術の展開方法について学びを深めることができた。 										
看護過程展開技術演習Ⅱ（看護・3年）	<ul style="list-style-type: none"> ・演習前に比して看護過程展開技術について理解を深め、汎用性を高めることができていた。 ・グループワークでの意見交換を通じて、メンバー間の見解を発展させて視野を広げ、自己成長を図ることができていた。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: yellow;">学生の自己評価による達成率 (%)</p> <table border="1"> <tr> <td>具体的看護ケア計画</td> <td>75.1</td> </tr> <tr> <td>長期短期目標設定</td> <td>76.3</td> </tr> <tr> <td>看護問題の明確化</td> <td>81.0</td> </tr> <tr> <td>関連図の作成</td> <td>74.6</td> </tr> <tr> <td>情報の整理と解釈</td> <td>81.4</td> </tr> </table> </div>	具体的看護ケア計画	75.1	長期短期目標設定	76.3	看護問題の明確化	81.0	関連図の作成	74.6	情報の整理と解釈	81.4
具体的看護ケア計画	75.1										
長期短期目標設定	76.3										
看護問題の明確化	81.0										
関連図の作成	74.6										
情報の整理と解釈	81.4										
公衆衛生看護学演習（看護・3年）	<ul style="list-style-type: none"> ・個別保健指導では、対象の考えを引き出し、生活に合った提案をすることが必要だと学んだ。 ・乳児家庭訪問では、乳児と家族の生活状況を把握し、関係機関と連携しながら必要な支援を行っていくことが大切だとわかった。 ・健康教育では、対象に内容を分かりやすく伝えること、今後の生活に活かしてもらえるような提示方法を考えることが重要だと学んだ。 										

<p>地域健康支援看護実習 (公衆衛生看護実習) (看護・4年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師は、短時間で効果的に対象の情報収集やアセスメントを行い、ニーズに合わせた支援を実施していくことが重要であると学んだ。 ・保健師は、個人から家族、地域と幅広い視点で住民の健康課題に取り組んでいることがわかった。 ・保健師は、様々な職種と連携して活動していることがわかった。
<p>地域健康支援看護実習 (地域看護診断実習) (看護・4年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師の活動として、地域・住民を知り、寄り添い、信頼関係を築くことが基本だと学んだ。 ・住民が持っている力を引き出しながら、必要なサービスを提案することが重要だと理解できた。 ・保健師は、地域のソーシャルキャピタルを生かすとともに作り上げていく必要があると理解できた。
<p>在宅生活支援看護論 (看護・2年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療や制度が変化する中、在宅療養を支援する看護の役割の重要性が理解できた。 ・在宅では、専門職と本人・家族が連携したチームケアの重要性が理解できた。 ・在宅看護では、療養者の状態を正確にアセスメントする技術や看護技術を身に着けることがより重要である。
<p>在宅生活支援看護演習 (看護・3年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NPPV、在宅酸素の着用等在宅呼吸療法に関する体験を通して、療養者の負担や気持ちを感じるとともに具体的な支援内容や方法を学べた。 ・訪問看護場面のロールプレイでは、療養者・家族を尊重したコミュニケーションの方法について理解できた。 ・療養者をとりまく生活環境、病気の特徴など総合的にアセスメントして看護計画を立案することの重要性を学べた。
<p>在宅生活支援看護実習 (看護・3年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅は医療者がいない時でも安全・安楽に生活できるようセルフケアの維持・向上を目指し支援することが重要な役割であると学んだ。 ・看護職者は療養者とその家族の意思決定を支援し、また、決定したことが行えるように支援する役割を担っている。 ・保健・医療・福祉関連従事者との連携を図り療養生活をより良くするコーディネーター的な役割も訪問看護師には求められる。(実習レポートより抜粋)
<p>地域保健学実習 (看護・3年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者の健康を支えるためには、看護職がコーディネーター的役割を果たし、関係職種が連携してサポートしていく必要がある。 ・事業場の健康課題に対し、一次予防・二次予防・三次予防と長期的に観察・支援していき、予防に努めていることがわかった。 ・特に小規模事業者は労働者の健康ニーズの把握や健康課題への対応が難しい。個々の事業所の健康で安心して働ける職場づくりを強化することが、産業保健総合支援センターの役割であるとわかった。(実習レポートより抜粋)

資料 30 平成 27 年度看護学専攻 4 年次の学習目標達成状況

～卒業時学生アンケート結果～

n = 73 (%)

学習目標	非常によくできた	できた	あまりできなかった	できなかった
看護の対象が身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな存在である人間として理解する	36 (49.3)	37 (50.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
対象の発達段階や健康状態, 生活状態を関連させて全人的に捉える能力を身につける	30 (41.1)	42 (57.5)	1 (1.4)	0 (0.0)
看護専門職としての倫理観を身につける	33 (45.2)	40 (54.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
看護専門職として, 豊かな感性と人間性を身につける	21 (28.8)	48 (65.8)	4 (5.5)	0 (0.0)
援助的な人間関係を形成する力を身につける	25 (34.2)	42 (57.5)	6 (8.2)	0 (0.0)
看護実践できる能力を身につける	5 (6.8)	47 (64.4)	20 (27.4)	1 (1.4)
看護実践において, 科学的根拠に基づいた看護アセスメント能力を身につける	14 (19.2)	53 (72.6)	6 (8.2)	0 (0.0)
健康上の課題を解決するために必要な知識, 並びに基本的な技術を修得する	9 (12.3)	54 (74.0)	9 (12.3)	1 (1.4)
保健医療福祉チームにおいて看護専門職としての責務を踏まえた指導的役割を遂行できる基礎的能力を身につける	13 (17.8)	46 (63.0)	12 (16.4)	2 (2.7)
国際的視野及び異文化看護の視点から, 国際社会において看護の機能や役割を遂行できる素地を身につける	7 (9.6)	35 (47.9)	28 (38.4)	3 (4.1)
看護について常に探究心を持ち, 看護の開発・開拓のための研究的態度を身につける	17 (23.3)	48 (65.8)	7 (9.6)	1 (1.4)
研究成果を看護実践・教育に生かすことができる基礎的能力を身につける	13 (17.8)	40 (54.8)	20 (27.4)	0 (0.0)

資料 31 スリランカ・ペラデニヤ大学短期留学生のアンケート (一部抜粋)

専門領域について	<ul style="list-style-type: none"> ・スリランカで経験できなかったことを体験できた。 ・沢山の研究フィールドに参加できた。 ・最新の技術, 医療を見学することができた。 ・研究検討会に参加できた。 ・この経験はとても有意義で将来の進路に役立つだろう。 ・将来の進路に対する考えに大きく影響した。 ・自分の研究に高い技術を駆使して神経科学の分野に進みたい。
生活全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を学び, 日本人の食べ物, 日本の秋・冬の気候は初めての体験だった。 ・世界中の友人とも出会った。 ・他国との文化交流ができた。 ・きれいな環境, 親切な人々, よいイメージを残せた。 ・日本人は親切であたたかい。 ・多種類の食物を食べた。

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

良好な進級率, 高い国家試験合格率を達成している。医学科においては CBT の合格率が常に高値であり, 積極的な研究成果発表, 米国医師国家試験に挑戦するようなグローバル人材育成の成果が出ており, 学生アンケートでは, カリキュラムに対する満足度とともに, 自己学習, 授業参加への積極度など主体性を示す項目で評価が高い。保健学科においては, 卒業研究で, それまでに身に付けた技術を駆使してテーマを各自完成させており, 看護師, 診療放射線技師, 臨床検査技師に必要な技術を身に付けたことを示していると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点到に係る状況)

1 進路・就職の状況

医学科では, 医師国家試験合格者のほぼ 100%が研修施設で研修(勤務)する。研修先に新潟県内を選択する学生数が伸び悩んでいる点は多くの地方大学と共通する傾向である(資料 32)。

保健学科では, 全員が進学あるいは就職し, 専門性を生かす職業に就いている(資料 33)。平成 27 年度進路状況では, 看護専攻は看護師として約 80%が大学病院等に就職し, 放射専攻では放射線技師として大学病院, 検査センター等に就職している。検査専攻では臨床検査技師として上記と同様な施設に就職するほか, 近年の傾向として医療機器関係企業への就職が増えている。大学院進学者は平成 22~27 年度に平均 14 人で約 8%である(資料 34)。

資料 32 医学科卒業生の新潟県内での卒業臨床研修数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
臨床研修総数(人)	90	89	84	102	94	97
県内での臨床研修数(人)	48	52	46	53	41	45
割合(%)	53.3	58.4	54.8	52.0	43.6	46.4

資料 33 保健学科卒業生進路状況

専攻	進路	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
看護学専攻	大学病院	46	41	41	49	41	42
	公立病院	11	17	13	6	8	7
	私立病院	20	20	20	18	26	26
	公務員	3	5	8	4	9	11
	養護教諭	1	3	1	5	2	4
	大学院進学	3	4	0	4	1	1
	その他	5	1	1	0	0	2
放射線技術科学専攻	大学病院	8	7	12	8	8	3
	公立病院	17	6	10	15	20	17
	私立病院	9	18	15	14	9	11
	検査センター・ 検診業務	2	2	2	0	1	6
	一般企業	1	0	0	1	1	1
	大学院進学	8	7	7	5	6	4
	その他	1	0	0	1	0	3

検査技術科学専攻	大学病院	5	4	3	2	5	5
	公立病院	6	3	21	8	21	15
	私立病院	17	21	11	20	13	12
	公務員	2	0	0	0	0	0
	検査センター・ 検診業務	2	5	0	1	1	2
	一般企業	1	2	2	1	3	1
	大学院進学	7	5	7	4	1	7
	その他	3	0	0	2	1	2

資料 34 保健学科からの進学者数

進学先	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
医歯学総合研究科	5 (2.8)	0 (0.0)	2 (1.1)	2 (1.2)	1 (0.6)	2 (1.1)
保健学研究科	10 (5.6)	8 (4.7)	10 (5.7)	6 (3.6)	4 (2.3)	7 (3.8)
他大学大学院	3 (1.7)	8 (4.7)	2 (1.1)	5 (3.0)	3 (1.7)	3 (1.6)

(注) () は卒業生数に対する割合。

2 関係者への意見聴取の結果

平成 24 年度に実施した全学卒業生アンケートの結果(資料 35, 36)で医学部卒業生が身に付いた能力として評価が高いものは、モラル・倫理観・責任感などで、教育目標に合致した、豊かな人間性を持った課題解決型の人材が育成されていることを示している。また、医学科の卒業生は国内外の医療・医学研究分野で貢献し、関連学会での活躍も顕著である。これは、平成 22 年度から 30 人以上の卒業生が他大学・研究機関の教授として就任していることでも測ることができる。

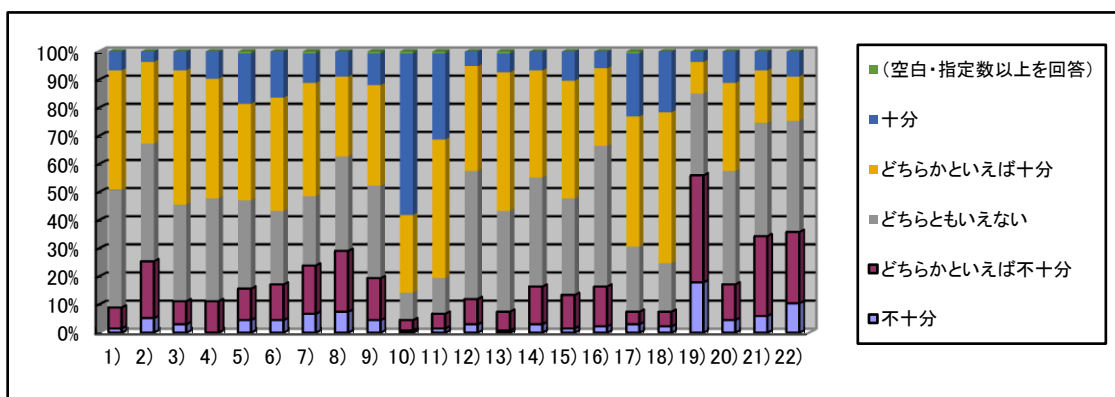
資料 35 平成 24 年度実施の全学卒業生アンケート結果(医学部分のみ 1)

問 あなたは新潟大学を卒業したことに満足していますか。		
1. 満足している	71	(53.0%)
2. どちらかといえば満足している	51	(38.1%)
3. どちらともいえない	10	(7.5%)
4. どちらかといえば満足していない	2	(1.5%)
5. 満足していない	0	(0.0%)

(注) 平成 21～23 年度の医学部卒業生 134 名からの回答による。(資料 36 も同様。)

資料 36 平成 24 年度実施の全学卒業生アンケート結果（医学部分のみ 2）

問 新潟大学で次のような知識や能力がどのくらい身についた、または養われたと思いますか。



- 1) モラル・倫理観・責任感
- 2) 幅広い知識（人文社会科学系の知識）
- 3) 幅広い知識（数理系・自然科学系の知識）
- 4) ものごとを総合的に判断する力
- 5) 自分の心身の健康に気をくばる大切さ
- 6) パソコンなどの情報機器を使う能力
- 7) 自分の考えを表現したりプレゼンテーションする能力
- 8) 他人と議論する能力
- 9) 文書作成・執筆能力
- 10) 資格・免許
- 11) 専門を理解するための基礎的な力
- 12) 計画・立案の能力
- 13) 課題を解決する能力
- 14) 自ら課題を発見する能力
- 15) 情報を処理したり分析したりする能力
- 16) 評価する能力
- 17) 良好な対人関係を構築する能力
- 18) グループで協働する能力
- 19) 外国語の能力
- 20) 学んだことを社会や世界で役立てたいと思う心
- 21) 社会問題に対する興味・関心
- 22) 異文化に対する興味・関心

(水準) 期待される水準を上回る
(判断理由)

卒業生は、臨床の現場のみならず、基礎医学・保健医学・社会医学の多様な分野で活躍している。卒業生のアンケートからは、専門的知識，資格に加えて，豊かな人間性を示す項目や課題解決力・創造的能力を示す項目で高い評価が示されている。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

① 国際基準に対応した新カリキュラムの整備

医学科では、総合医学教育センターを平成23年に設置し、「診療参加型実習の充実」「研究マインドの滋養」「初年次教育の整備」を軸にしたカリキュラム策定を進めた。また、平成25年に「国際基準に準じた医学教育分野別認証評価」トライアルを日本で初めて受審し、これに基づいて国際的な質保証を十分に担保できる新カリキュラムを導入した。

② グローバル人材育成に向けた取り組み

新潟大学「グローバル人材育成事業」の一環で、医学科では、①海外の医師・研究者の招聘と講義・セミナーの定期開催、②医学生のための英会話講座の毎週開催（MEET）、③1年次選抜学生（約10%）を対象にしたアカデミック英語集中プログラム（SPACE）を平成25年秋から推進した。また、これまでの海外医学研究実習や海外大学との学生交流を強化した。これにより、海外医学研究実習者は毎年10人以上に増加し（第1期中期目標期間は6人以下）、平成24～26年度には米国医師国家試験（USMLE）のStep1の学生合格者が8人となった。

③ 臨床看護部との共同による観察力・実践力育成教育プログラム開発

平成21年度文部科学省大学改革推進事業「看護師の人材養成システムの確立」（5年間に採択された「“気づく”を育て伸ばす臨床キャリア開発」事業は、看護師育成のための4つのシステム（教育プログラム開発、教育指導者養成、人事交流、キャリアパス構築）を実現した。特に、教育プログラム開発では、看護部臨床技術トレーニングセンターを開設し、臨床技術トレーニングプログラムを作成し、教育指導者養成では、臨地実習専任指導者の教育体制を整え、臨地実習における臨床指導者および教員の連携教育を実現した。事業の成果は、学会発表33編、論文5編、商業誌等2編に公表し、教育教材（DVD等）を作成し社会に還元した。これらは卒業生の就職先の選択に影響を与え、平成22～27年度の特定期間病院就職者の割合は約50%を占めた。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

① 医学研究実習および研究医養成コースの整備による研究マインドの滋養

医学科では従来の医学研究実習に加え、平成25年に「研究医養成コース」を整備し、特に研究志向を持つ学生の育成に力を入れた。その結果、平成25年から平成27年で14人が研究医養成コースに登録し、医学研究実習終了後も課外活動として研究を行う学生が増加した。平成25年度には医学科同窓会（学士会）に学部学生の研究業績に対する奨励賞が設定され、平成27年までにのべ14人が受賞した。

② 専門職資格取得『国家試験合格率』の目標達成

保健学科では、教育カリキュラムの精選、必須・標準的医療技術を体験できる演習・実習の設定、小グループ教育などにより教育目標の達成に努めている。看護師の国家試験合格率は平均98%以上を維持し（過去5年全国平均は89%）、保健師は平成26年度に100%、助産師は平成24年度から4年連続100%を達成している。また、診療放射線技師国家試験合格率が95%（国立大学法人11校中1～2位）、臨床検査技師国家試験合格率は平成25、26年度と100%（国立大学法人21校中トップクラス）を達成している（資料26）。

③ 保健学という共通理念及び環東アジア地域・スリランカとの交流による異文化理解を基盤とした学部教育

保健学教育では異文化理解を教育目標に置き、「環日本海医療概論」、「国際保健医療学」等の充実とともに、平成23年度から新しい教育プログラム「保健学総合」を開設して「国際医療活動と保健学」を開講し、並行して国際交流プログラムを開始した。平成27年度までにペラデニヤ大学への短期派遣者は48人、ペラデニヤ留学生36人が単位認定を受けた。